

氏名	荒木 美奈子 ARAKI Minako
所属 職名	人間文化創成科学研究科人間科学系 准教授
学位	Ph.D. (開発研究)
専門分野	開発研究
URL	
E-mail	araki.minako@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

開発研究
アフリカ地域研究
内発的発展論
住民組織
プロセスの記述

development studies
African Area Studies
endogenous development
groups/organizations
process documentation

主要業績

荒木美奈子 (2011) 「「ゆるやかな共」の創出と内発的発展?ムビンガ県キンディンバ村における地域開発実践をめぐって?」、掛谷誠・伊谷樹一編『アフリカ地域研究と農村開発』、京都大学学術出版会、pp.300-324.

荒木美奈子 (2011) 「コーヒーからみえてくるグローバル化とは?タンザニアのコーヒー生産農民の営み」、小林誠・熊谷圭知・三浦徹編『グローバル文化学?文化を越えた協働?』、法律文化社、p.86-103.

学会発表、荒木美奈子「タンザニアにおける地域開発実践?プロセスの記述と解釈の視点から?」、国際開発学会第21回全国大会 (於:早稲田大学、2010年12月4日)

研究内容 / Research Pursuits

1. 国際協力機構 (JICA) 研究所の「アフリカの村落給水組織と協調的地域社会形成に関する研究」に研究分担者として携わった。タンザニアを対象地域とし、村落給水を巡る課題をコモンズ論の観点から分析し、資源の管理・運営に関わる住民の行為とその制度化プロセスを検証してきた。2010年8月9日から9月12日までタンザニアにてフィールド調査を実施した。2. タンザニアでのSCSRD/JICAプロジェクト (1999-2004) 及び科研「地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する研究」(2004?2008) の約10年間の総括として掛谷誠・伊谷樹一編『アフリカ地域研究と農村開発』の出版が企画され、分担執筆を行った。3. 開発実践における定性的なモニタリング・評価の方法として、「プロセス・ドキュメンテーション」の可能性について検討を続けている。成果の一部は、国際開発学会大会にて報告するとともに、佐藤・藤掛編『開発援助と人類学』(明石書店、近刊)に「開発実践におけるプロセスの記述?ザンビアとタンザニアのフィールドからの学び?」を執筆した。

1. I joined the JICA research project entitled 'Management of Water Users' Associations and Formation of Collaborative Local Society in Rural Africa'. The objective of the project is to analyze, from the viewpoint of collective management of common pool

教育内容 / Educational Pursuits

学部：前期に「国際協力学」、「国際協力方法論 I I」、「グローバル文化学方法論（共同担当）」等を担当、後期に、「国際協力方法論 I」、「グローバル文化学特論（共同担当）」、リベラルアーツ科目「生命と環境10：開発と共生」/「生活世界の安全保障 5：人間の安全保障」を担当するとともに、グローバル文化学環の卒業研究指導を行った。また、学生向けテキスト『グローバル文化?文化を越えた協働?』の分担執筆を行った。大学院：前期に「国際協力論」、後期に「国際協力論演習」の授業を担当した。

In the academic year of 2010, the lectures and seminars I provided are as followings: For Undergraduates: Introduction to International Cooperation, Advanced International Cooperation I & II, Methods of Global Cultural Studies, and Human Securities/Devel

研究計画

1. 2011年度から科学研究費基盤研究（B）「アフリカの開発実践における住民組織と開発プロセスの創出に関する研究」（研究代表）を実施する。タンザニア・ムビンガ県を対象地域とするが、SCSRD/JICAプロジェクト期間（1999?2004年）及びプロジェクト以降現在に至る約10年間に、第一期、水力製粉機建設をめぐる諸アクター間での意見の相違・合意・協働の時期、第二期、農民グループ活動の展開と「停滞」の時期、第三期、小型水力製粉機建設や給水事業等の新たな事業への展開の時期へと推移してきている。本研究では、主に1)内発性やキャパシティの発現過程と形態、2)コモンズ論としての資源利用と管理、3)住民組織の役割とインフォーマルな組織との関係性、4)外部要因との関係に着目し、継続して諸活動をモニタリングしていく予定である。 2. 2009?2010年度に実施されたJICA研究所の「アフリカの村落給水組織と協調的地域社会形成に関する研究」（研究分担者）の成果のまとめとして、2011年度にシンポジウムと出版が企画されている。

メッセージ

「開発」実践と研究の双方からアフリカ（特にザンビア、タンザニア）に関わってきました。実践と研究をつなぐ視点やアフリカが抱えている課題と可能性の双方を、伝えていきたいと考えています。「国際協力」＝「先進国/専門家が貧しい人々を支援する」というイメージが先行しますが、グローバル化が進む世界のなかで、私たちの生活がいかに他の地域と繋がり、相互に依存しているかを理解し、関係性のなかで「国際協力」を考えていく視点も大切です。モノや出来事の向こうにある人びとの暮らしに思いを馳せる「想像力」と、ローカルの中でそれぞれに生きる人びとが、相互に学びあい、新たな社会を築いていく「創造力」の双方を身につけてほしいと願います。大学院生に関しては、長期のフィールドワークに基づく研究を志す方が増えることを期待しています。